

2 分野別の特色に応じた教材開発

「分野別の特色に応じた教材開発」の

見方

教材開発のポイント

教材開発の手順「着想 → 構成・推敲 → 実施・改善」に沿って、各分野で特に留意すべき事項やポイントについて、キーワードを示した上で、記載しています。

教材開発例 1

各分野で特に留意すべき事項やポイントを踏まえて、どのように教材開発を行ったかを具体的に記載しています。

教材開発例 1 「わたしが行かねば」

【小学校中学年 主題：強い意志 内容項目：1の(2)】

藤野昌言さんは、府中市の医師である。明治12年(1897年)に全国的に行われたコレラの治療に自身の危険も顧みず邁進し、身を捧げた。地域の人々は、その死を悼み、現在、古香堂と呼ばれている記念碑を建て、感謝の意を表した。現在も、命日には、遺徳を偲ぶ昌言祭が行われている。



資料名、対象学年、主題、
内容項目

選定した素材の概要

(1) 素材の収集・選定

集めてみよう

府中市は、府中地区のオランダなど古くから伝わるもの作りの伝統ある地域である。素材の収集にあたっては、府中市立小学校中学年用の社会科副読本から地域の特色ある伝統や文化、自然、歴史に貢献した人物を選定した。また、所属校内や市道徳推進協議会において、素材収集の依頼をした結果、多くの素材を集めることができた。

先人の伝記分野においては、その人物が府中市の地域の人々のために行った功績がはっきりしているか、現在の生活につながりがあるか、その人物の生き様から生きる勇気や知恵を感じることが出来るかという観点で絞っていった。とりわけ、「藤野昌言」は、医者として当時わかっていなかった「コレラ」の治療に尽くした歴史的な史実がはっきりしていること、また、現在も「昌言祭」という慰霊祭が行われていることなど、医者として治療をしたというだけでなく、貧しい患者からは治療費をとらない代わりに味噌や米をあげたり、葬式の世話をしたり、暮ってくる若者を自分の家に住まわせて学問を教えたりするなど、より人間味を感じられた。中学年の社会科副読本にも「地域に貢献した人々」として取り上げられており、各教科等との関連も図りながら学習することも出来ることから、「藤野昌言」を教材として選定した。

手順に沿った教材開発の実際

(2) 情報の収集

探してみよう

○ 郷土資料(社会科副読本等)

また、社会科副読本の作成者へ資料・情報提供のお願いをして資料集めをした。当時副読本作成のために提供していた参考文献を図書館で調べた。『医師藤野昌言』『府中市の人物誌』『もともま』などの資料から、藤野昌言の生い立ちや家系、医者としての患者への対応、また多くの学者たちと熱心に漢学の勉強をしたことが書かれていた。

各稿における推敲の主な視点

特に、手順例の「(3) 読み物資料の作成 ⑤場面分けをもとに文章化する ⑥不要な文章や文言を削除する」の部分について、初稿から最終稿に至るまで、その流れの概要を示しました。さらに、記述をどのように変えていったのか、その改善点とその理由を記載しました。

推敲の流れ



